



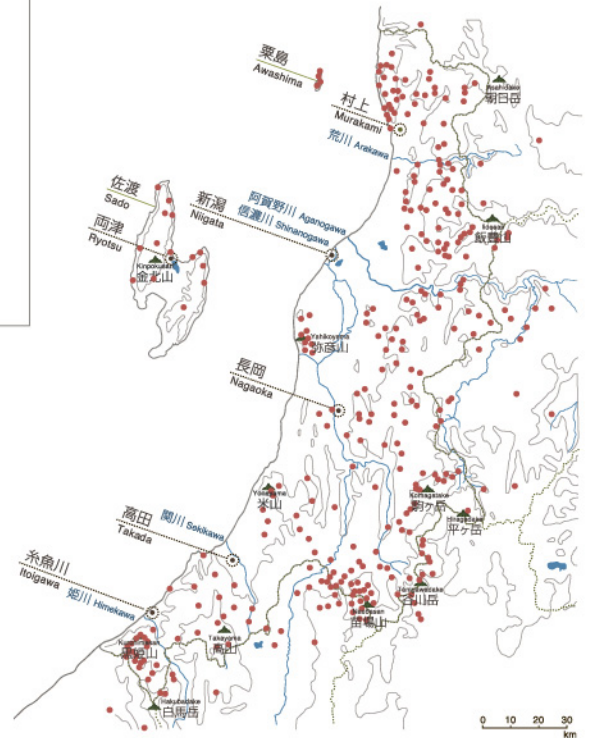
富樫信平 画 1985.10.25 新潟県荒川町産

エゾユズリハ

Daphniphyllum macropodum var. *humile*
〈ユズリハ科〉

矮性で樹高2mほどにしかならない常緑樹。北海道から本州北部の日本海側の多雪地帯に広く分布し、県内でも各地の林の中などに広く分布する。樹高が10mになる基本種のユズリハ (*D. macropodum*) は、本州中部から沖縄に分布するが、県内には分布しない。日本には、内陸生のユズリハ、エゾユズリハと海岸生の福島県以南に分布するヒメユズリハ (*D. teijsmannii*) がある。

(田中良明)



新潟県内の分布 (新潟県植物分布図集第2集1981より転載)

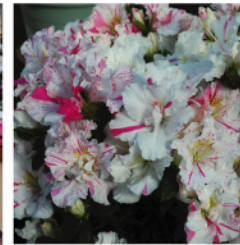
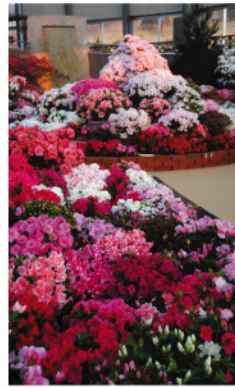
第7回 古典園芸植物展

江戸時代に入り、さまざまな植物が次々に園芸化されました。これらは、現代でも園芸植物として広く栽培される植物もある一方で、ほとんど目にすることはないものの、古典園芸植物と呼ばれ伝承されているものもあります。

当園では毎年、新春の展示として、地元の愛好家、生産者のみなさまのご協力により、貴重な古典園芸植物の数々を紹介してきました。7回目となる今回の展示では、その観賞方法に着目します。独特の方法で観賞される古典園芸植物は、他の植物との組み合わせや、花台や小物をあしらった壇などに置かれることで、さらなる魅力を発揮します。

古くから栽培がさかんで、継承に力を入れているこの地でこそその250品種が出揃います。

ぜひこの機会に、今日に受け継がれる独自の世界に、触れてみてはいかがでしょうか。



平成20年2月6日(水)-3月2日(日) アザレア展
平成20年3月5日(水)-4月6日(日) チューリップ展
早春を彩るにいがたの花

アザレア展

周囲は雪で覆われ、植物は休眠した状態で暖かい春を待つこの時期、植物園の温室では色鮮やかな花が咲き誇ります。毎年好評をいただいているアザレア展。今回も数多くの花をつけたアザレアが所狭しと展示会場に並びます。

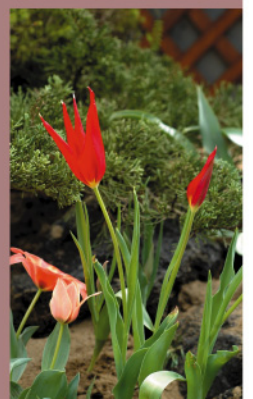
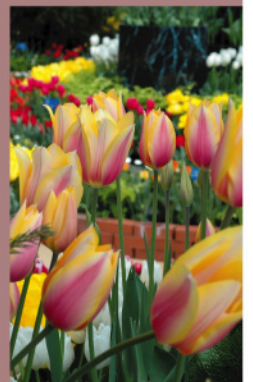
ツツジを親とし、ヨーロッパで室内観賞用鉢花として改良されたアザレアは、新潟県でも盛んに生産、育種が続けられ新たな品種が生まれています。アザレアが誕生した歴史のほか、国内外や新潟県で育成されたアザレアの新品種をご紹介します。昨年6月に当園を会場とした「にいがた花の国際見本市」でお披露目されたベルギーのアザレアの新品種も登場します。

150品種1,000鉢を超える豪華なアザレア展をお楽しみ下さい。

チューリップ展

日本へ初めてチューリップが入ったのは幕末の頃とされています。現在は春の花の代表ともいえるチューリップですが、日本に移入された当時から明治時代までは、栽培方法が分からずほとんど普及していませんでした。大正にはいり、ようやく球根の商業生産が行なわれるようになりました。そのはじまりの地が新潟県中蒲原郡小合村(現新潟市秋葉区)で、チューリップの球根栽培発祥の地として、新潟県とチューリップには深いつながりがあります。

チューリップ展では、春を迎える一足先に温室内で期間中200品種1万本を超えるチューリップを展示します。新潟で作出された最新品種や珍しい野生種を展示するほか、春に咲く様々な球根植物も紹介します。チューリップが登場する物語などもわかりやすく紹介していますので、ぜひご家族づれで春の花をご堪能下さい。



下左:ファレノプシス・ピオラセア *Phalaenopsis violacea*
 東南アジア原産のコチョウランの仲間。花の中心に鮮やかな紫色が入る。
 下右:ブルボフィルム・エキノラビウム *Bulbophyllum echinolabium*
 スラウェシ島原産。ヒトデのような形をした大きき20cm程の花を咲かせる。
 花はとてくさい。



左:洋らん展の様子(H18)。熱帯植物ドームに愛好家が育てた美しいランを展示する。

右:ブルボフィルム・ファラエノプシス *Bulbophyllum phalaenopsis*
 ニューギニア島原産。50cmほどもある肉厚の葉をつける。花は地味で、とてくさい臭いがする。

くさい!?ランの花 温室

熱帯植物ドームでは、毎年11月を過ぎるとさまざまなランが次々と咲き始めます。

ランの中にはカトレヤやファレノプシス(コチョウラン属)などの華やかな花もありますが、ブルボフィルム(マメヅタラン属)の仲間代表されるような地味で形が奇妙な花も見られます。もし、このような植物を見かけたら、試しに顔を近づけて臭いをかいでみて下さい。もしかするとその瞬間、強い悪臭が鼻を襲い、顔を逸らす事になるかもしれません。

植物の花、特にランには、受粉を成功させ子孫を残す為の様々な工夫が見られます。地味な色のランの花は、受粉を成功させるためのパートナーとしてハエなどを利用しているため、ハエが好むようなくさい臭いを持つものが大変多く見られます。

平成20年2月6日(水)～11日(祝)には、熱帯植物ドームを中心に毎年恒例の「洋らん展」を開催します。展示では、県内の洋らん愛好家の方々が育てた200点を超えるランを展示します。華やかな花に目を奪われるだけでなく、臭いをかいだり、形を観察したりしてランに秘められた子孫を残すための戦略について考えてみるのも面白いかもしれません。(久原泰雅)

園内ウォッチング

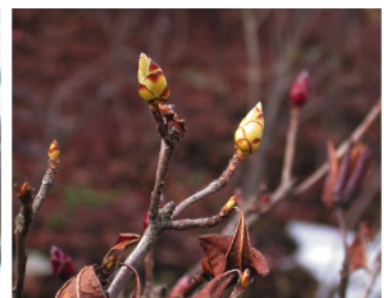
園地 冬の散歩の楽しみ

寒くなり、園内の落葉樹は葉をすっかり落とし、夏とは違う景色を作り出します。宿根草花壇内のハリエンジュの仲間も葉を落とし、枝ぶりがあらわになっています。その枝に近づいて観察すると、枝の側面にはコウモリの顔のような形をした葉痕(葉の付いていた跡)が見られます。葉痕は、樹種によりいろいろな形をしていて、人や動物の顔や見えたり、笑顔や怒った顔に見えたりします。

冬芽も、葉痕と同様に樹種により形が異なり、モクレンは毛で覆われた冬芽をつけ、ドウダンツツジは魚のうろこのようなものに包まれた冬芽をつけます。冬芽の中には花や葉の基があり、植物は冬芽を形成することにより、これらを守っています。

葉痕や冬芽の観察は冬の間にできる楽しみのひとつです。(橋本 永)

下左:オオデマリ *Viburnum plicatum* var. *tomentosum*
 下右:ハリエンジュ'フリシア' *Robinia pseudoacacia* 'Frisia'



左:ハクモクレン *Magnolia heptapeta*
 右:ツツジ属の園芸品種 *Rhododendron* cv.



NEWS 1

12月1日入館無料デー

当園は、昨年12月1日から開園10年目に入りました。これまでのご愛顧に感謝の気持ちを込めて、12月1日(土)に観賞温室を無料開放しました。当日は雨降りの寒い天候にも関わらず、ご家族連れを中心に4,000人を超えるお客様にご来園いただきました。企画展示「クリスマス展」の会場内では高さ6mの巨大ツリーや装飾の前で記念撮影をされる方が多く、一足早いクリスマスを満喫していらっしゃいました。

また、昨年12月に新津美術館との共催で開催した「富樫信平大植物画展」を皮切りに、10周年を迎える今年12月1日までの1年は、講演会や10年間を振り返る展示など様々なイベントを予定しています。ぜひご来園下さい。

(大谷史絵)



NEWS 2

新潟日報 「植物園の花だより」 連載始まる



11月27日から新潟日報地域版で「植物園花だより」と題した植物園で育成する植物の連載が始まりました。火曜から土曜の週5日、約1年に渡り、開花情報などのタイムリーな話題をお伝えしています。園内では3,000種類を超える多様な植物を栽培しており、県内では植物園でしか見ることができない、あるいは今まさに花盛りといった植物など様々な植物が登場します。植物の魅力をお伝えできればと職員一同願っておりますので、一年間よろしく願いいたします。

(永井明子)

NEWS 3

中学生が職場体験活動で来園

10月15日(月)から17日(水)にかけて、新津第五中学校の3年生5名が、当園で職場体験活動を行いました。体験の内容はハーブ園で稔ったソバの実を穂から外す作業や、来年の花のためのボタンの剪定です。すこし気温の低い時間もあり、外での作業はたいへんだったと思いますが、来園者のみなさんに元気にあいさつをしながら仕事を進めていました。作業のほか、温室の見学や、職員へのインタビューも行い、普段は知ることのできない植物園のことをたくさん学んでいただけたと思います。後日、生徒から「充実感、達成感を味わった」との感想が寄せられました。一生懸命手入れをしていただいたボタンは、春にきれいな花を咲かせると思います。

3日間、お疲れさまでした。

(林 寛子)



ボタンの剪定作業の様子



人々を驚嘆させたゴクラクチョウカ
(*Strelitzia reginae* var. *regina*)の花



イギリスとアメリカの植物園による植物合同調査

NEWS 4

植物園の植物調査とその意義

17世紀に始まる大航海時代、西洋諸国の人々は世界中に新たな資源を求めて旅立ちました。植物では、はじめは香辛料や薬用植物などの有用植物を求め、時とともに世界中の美しく珍しい植物を競って自国に持ち帰るようになりました。例えば、南アフリカ原産で鳥の顔のような花形のゴクラクチョウカは18世紀末にイギリスの王立キュー植物園で初めて公開され、多くの人々が見事な花に驚嘆したことが伝えられています。この時代、植物園にはこのように世界中の植物を栽培し紹介する役割がありました。

しかし、時とともに植物園の役割も少しずつ変化しています。現在、約10万種(地球上の3分の1)の植物が野生での絶滅の危機に瀕しており、植物園には植物を紹介する役割だけでなく、それらの植物を保全する活動が重要な使命として位置づけられるようになりました。保全を進めるにあたっては、植物園間の情報交換や調査協力が不可欠です。本年度も海外から幾つかの植物園が訪れ、多様性研究や遺伝子資源の調査を行いました。当園でもこれらの調査に協力し、情報交換を行いながら保全活動を進めていく予定です。(久原泰雅)



阿賀町での植物調査
左:フラナガン氏(英国王立ウインザー・グレートパーク)

新潟の植物

フユイチゴ *Rubus buergeri*



左の2つは小核果がはずれた後の花托

フユイチゴは、太平洋側は千葉県、日本海側は新潟県が北限の常緑のつる性低木です。新潟県には、佐渡を含めて点在、特に下越地方に多く分布が見られ、胎内市(旧黒川村)が北限となります。

山地の林縁に生育し、茎は匍匐して伸びます。細かい鋸歯に縁どられる葉は、深い緑色で光沢があり、落ち葉の積もった林床に見つけることができます。

フユイチゴの名は、実が冬に実ること由来し、11月から12月にいかにもキイチゴ属らしい集合果をつけます。一つ一つの実(小核果)は花托からかたんにはずれ、毛の生えたいくらの粒のように見えます(毛のようなものはめしべの名残)。食べてみると甘みはあまりなく、口の中に種子が残ります。

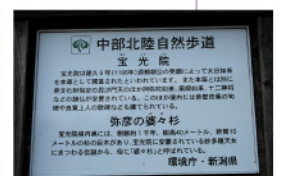
実りと降雪のタイミングが合えば、緑の葉と赤い実が雪に映える姿を見ることができます。(林 寛子)

新潟の天然記念物

弥彦の^{ばば}婆々杉

弥彦の婆々スギは、新潟県西蒲原郡弥彦村の競輪場の北側に位置する真言宗宝光院境内の奥にあります。樹高は40mで目通り幹周は7.1m、推定樹齢1,000年の大きくてたいへん美しいスギです。1952年12月12日に新潟県指定天然記念物に指定されました。

婆々杉の「婆々」は東北地方や新潟県内弥彦村、小千谷市、大和町、佐和田町などに伝わっている弥三郎婆の伝説に由来します。弥三郎婆の伝説は、各地により内容が異なりますが、弥彦には、悪行を重ねた弥三郎婆が神に諭され改心した後、妙多羅天女^{みょうたらてんにょ}として祀られたという話が伝えられています。この杉が婆々杉と呼ばれるのは、弥三郎婆がこのスギの根元に住んだからという説や、この木に死体をかけたためという説などがあります。(田中良明)



友の会通信

友の会では、今年の秋も様々なイベントを開催しました。夏の暑さのためキノコが例年より少なかったり紅葉の時期が遅れたりしましたが、イベントは参加者も多く大変盛況でした。



キノコ観察会
上:小池先生の説明を受ける。
左:できあがったキノコ料理を皆で食べる。

●秋の植物園まつりへの参加

秋の植物園まつり(10月7日(日)~8日(月))に会の活動紹介と余剰の苗や園芸資材等の販売を行いました。

●参加者:石黒進、橋本美智子、高橋仁

●キノコ観察会と試食会

10月6日(土)に毎年恒例となるキノコ観察会と試食会を行いました。旧小須戸町の大沢公園での観察会では、今年の夏は暑く残暑も厳しかったためか、毒キノコが数種確認できただけで食用キノコは一つも見つかりませんでした。それでも講師の小池先生に用意いただいたキノコで食事をつくり、秋の味覚を楽しみました。

●講師:小池忠一

●秋の植物観察会

今年も10月20日(土)、21日(日)に石澤会長の郷里、長野県栄村での観察会を開催しました。

一日目は、会長が行っている自然学校の活動に参加しました。自然学校では自然に触れることで自然に対する興味や大切さを感じられるような活動を行っています。友の会でも、地元の小学生たちと共にリースの材料にするヤマブドウやサルナシの蔓やそれらの果実を採集した他、キノコに詳しい方から毒キノコの見分け方についてなど様々なアドバイスを受け、昼食時にキノコ汁もいただきました。

二日目は栄村秋山郷の一番奥にあたる雑魚川^{ぞごがわ}周辺に向かいました。天気は快晴で紅葉も見頃であり、目的地に向かうバスの中で九十九折のカーブを曲がる度に変わる美しい景色に歓声が上がりました。雑魚川周辺には自然林が残されており、トチノキやミズナラなどの大きささまざまな木が共存する森の姿を観察しました。

●講師:石澤進(会長)

●クリスマス交流会

12月23日(日)に皆で集まり植物の交換や今年の活動報告を行った後、植物園で開催したコンサートを聴きました。来年の計画についての話も弾みました。



秋の植物観察会
上:キノコの講習会。
左:自然学校に参加している子供。



上:栄村北野天満宮の鳥居の前で。
右:紅葉の中を歩く。



新潟県立植物園 友の会

友の会会員を常時募集しておりますので、植物園までお問い合わせください。

会員特典

- 観賞温室入館料無料
- 植物園だより、友の会ニュースレター、各種イベント案内の送付
- 研修旅行、企画旅行などイベントへの参加

年会費(4月より翌年3月まで)

- 個人会員 2,000円
- ファミリー会員(同居の家族は何人でもご利用できます) 2,500円
- 賛助会員 一口 10,000円

花と緑の相談コーナー

専門相談員と職員がわかりやすく、ていねいにお答えします。
来所のほか、お電話、FAX、電子メールなどで
お気軽にお問い合わせ下さい。

専門相談員による相談日

- 1月…6日、13日、20日、27日
 - 2月…3日、10日、17日、24日
 - 3月…2日、9日、16日、23日、30日
- ※変更になる場合があります。

わくわく植物探検ツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。
解説付きの見学は満足度倍増! ぜひご参加下さい。

- 10:40～ ●14:40～(土・日・祝は13:40からも実施します)
- 当日温室発券カウンターにて受付(定員制)

教室

花と緑の教室

会場:花と緑の情報センター 2階研修室
時間:10:30～12:00 ※2月24日のみ10:00～12:00
参加希望の方は事前に電話でご予約下さい。

1月27日(日)●「冬芽観察ツアー」

講師:橋本永(県立植物園職員)
定員:20名 参加費:無料

2月10日(日)●「咲かせよう!シンビジウム」

講師:細川 傳一郎(細川洋蘭農園)
定員:40名 参加費:無料

2月17日(日)●「クリスマスローズの育て方」

講師:石塚正樹(石塚萬花園)
定員:30名 参加費:無料

2月24日(日)●「アザレア一栽培と観賞」

講師:倉重祐二(県立植物園副園長)
定員:30名 参加費:無料

3月9日(日)●「ウメの剪定」

講師:田中 良明(県立植物園職員・樹木医)
定員:15名 参加費:温室入館料がかかります。

3月16日(日)●「雪割草の栽培」

講師:本間 秀晃(花工房ほんま)
定員:25名 参加費:無料

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 2月3日(日)まで「古典園芸植物展」
- 2月6日(水)～3月2日(日)
「早春を彩るにいがたの花 アザレア展」
- 3月5日(水)～4月6日(日)
「早春を彩るにいがたの花 チューリップ展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 1月8日(火)～1月27日(日)
「ひょうたん展」 出展:シニアクラブ大和会
- 1月29日(火)～2月24日(日)
「にいがたの野生ラン写真展」
出展:清水尚之(ラン・ネットワーク)
- 3月5日(水)～3月23日(日)
「外山康雄 野の花の水彩画展」

観賞温室第3室2階 特別展示

- 2月3日(日)まで 「古典園芸植物展関連展示」
- 2月6日(水)～2月11日(祝・月)「洋らん展」
- 2月16日(土)～3月2日(日) 「クリスマスローズ展」
- 3月14日(金)～3月16日(日) 「雪割草展」

information

図書のご案内 温室発券カウンターにて販売しています。



「里山の植物」

2,000円

新津丘陵に植生する植物の大図鑑。約800種の豊富な里山の植物の魅力を再発見。



「ようこそ緑の夢王国 新潟県立植物園」

1,200円 ※お求めやすくなりました

新潟日報夕刊に連載された内容をまとめた一冊。植物に親しみきっかけに、植物園観賞のお供にぜひいかがですか。

温室内レストラン「Plantopia ～プラントピア～」

「プラントピア」は入館無料エリアにありますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

URL:<http://www.aidabentou.com/plantopia/plantopia>

観賞温室利用案内

開館 ●9:30～16:30(入館締切16:00)

入館料 ●大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円

※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

観賞温室開館カレンダー (●休館日)

新年は1月4日から開館します。

1							2							3						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	●1	●2	●3	4	5	日	・	・	・	・	1	2	日	・	・	・	・	・	1
6	●7	8	9	10	11	12	3	4	●5	6	7	8	9	2	●3	4	5	6	7	8
13	14	●15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	9	●10	11	12	13	14	15
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	16	17	18	19	20	21	22
27	28	29	30	31	・	・	24	25	26	27	28	29	・	23	24	●25	26	27	28	29

交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路 ●磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分

一般道路 ●(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分

JR ●信越線古津駅から徒歩約20分

バス ●区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分

●新潟交通:新津駅東口から「矢代田經由白根・潟東営業所」行き

「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地

TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410

Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp

ホームページ <http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>

指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター



登録範囲は、事務局、鳥屋野潟公園事務所、業農寺記念公園事務所、県立植物園です。

